

Kankyo

実施期間: 大学祭 平成 22 年 11 月 6 日～7 日

実施場所: 角脇川周辺

Contents

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">■ 趣旨<ul style="list-style-type: none">□ 趣旨説明□ arch-unit の過去の作品■ project report<ul style="list-style-type: none">□ 現代建築の様相□ arch-unit_2010 のコンセプト□ Kankyo 概要<ul style="list-style-type: none">○ concept image○ site/plan/structure□ 作業風景□ 当日の写真 | <ul style="list-style-type: none">■ project report<ul style="list-style-type: none">□ 当日の展示<ul style="list-style-type: none">○ 展示□ 宣伝<ul style="list-style-type: none">○ 立て看板、ポスター□ アンケート<ul style="list-style-type: none">○ アンケート結果(回答例)■ 会計決算報告■ 総括 |
|---|---|



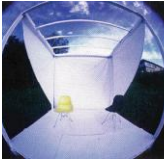
arch-unit 2010 (建築史・意匠学系学生団体)

■趣旨

□趣旨説明

arch-unit とは広島大学建築意匠学研究室の大学院生・学部生を中心としたデザインユニットです。arch-unit では、1996年から毎年、広島大学で企画されている「学生のおもしろ企画」に参加しています。『新風景の創造』と題して、建築を学ぶ学生として提案を行っており、今年で15回目となります。具体的には、この機会を講義で習得した設計・意匠・環境・構造の総合の場と捉えて、現代建築の様相からコンセプトを考えて設計を行ない、実際に形にするということを行っています。そして企画の成果として、大学祭の期間中にインスタレーションを行ない、訪れる人々に提案したものを体験・評価して頂いています。今年度は『Kankyō』と題して提案を行いました。

□過去の作品



1996 small house

プロトタイプとしての住宅、工業製品としての住宅をテーマにぶどう池の南(角脇川周辺)の緑地に木造の白い箱(建築)を3棟建てました。



1997 slit with monolith

映画「2001年宇宙の旅」のモノリスから着想を得て、それらを乱立させることで非日常的な、思考の場を出現させました。



1998 sound garden

「訪れる方々がより参加しやすいスペース」を意識し、角脇川の横に休憩スペースと展示スペースを建てました。



1999 balloon garden

「おもしろく体験できる」をテーマに、144個の風船が浮かぶ空を見上げる場をつくりました。



2000 空間育成プロジェクト

植物を育てるかのように空間を創造するという考えのもと、植物と人間との新しい関係、建築材料としても新しい植物の創造の提案を行いました。



2001 poly sack

「ポリサック」は携帯し持ち歩くことのできる2メートル四方のモバイル型建築です。外気を閉じ込めることによって簡単に小空間をつくり出すことができます。



2002 PI:S

「認識」をテーマに、各場所における要素からつくられた空間を体験し、思い思いの場所にパンジーを植えていただいで一緒に新風景をつくっていきました。



2003 Cubic space(s)

テーマは「境界」。建物の内と外とを分ける表面(サーフィス)に特に焦点を当てました。様々な表面を持った8個のキューブが重なり合い、多様な空間をつくり出しました。



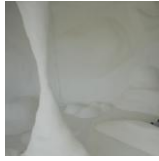
2004 patchwork architecture

「軽いということ」をテーマとして、布の透過性を利用し、視覚的に軽くすることに加え、布を3次的に重ね合わせることで空間としての軽さを表現する空間構成手法を提案しました。



2005 filing_Film

「積層する風景」ということをテーマに、風景に「filing_Film」という様々なテクスチャーのレイヤー装置を挿入する事で得られる視覚的効果について追及しました。



2006 post-flat

「post-flat」をテーマに、直行三次元座標によらず、自由曲面を使うことにより、床、壁、天井を連続させて空間をつくり、新しい感覚が見出すことを追及しました。



2007 『ハコ』 ～分散された異空間～

美術館の「分散」をテーマに、異なる「色」の5つの小さなハコを点在させ、それらをめぐりながら人々はアートを楽しむ。ハコと自然がおりなす非日常的で新しい風景とアートの展示について提案しました。



2008 [ARis] —建築的錯覚空間—

「建築的錯覚空間」をテーマに、訪れた人に連続する部屋の中を巡りながら、自身の身体の大きさや部屋の広さの錯覚的な体験する空間を提供しました。



2009 「森のすみか」

「自然との共生」をテーマに、環境問題に対しても目を向けてもらう空間を構成する試みが行われ、また壁を皮膜にすることで建築内部と外部を曖昧にした空間構成を提案した。

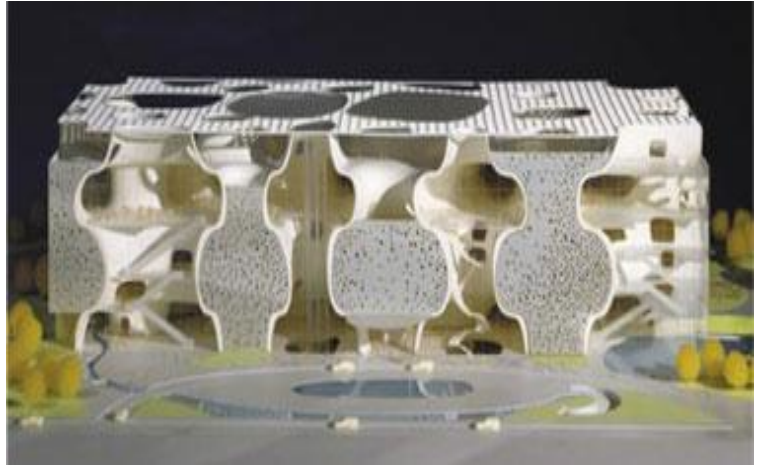
□現代建築の様相

建築形態の歴史的動向から推測すると現代建築の空間は、横浜大さん橋国際客船ターミナルや台中オペラハウスのように、さらに複雑化しつつあります。また近年では環境問題に配慮した建築というものが注目され続け、人工物である建築と自然といった、両者の相反する関係の共存が求められていることが現状です。

例)



横浜港大さん橋国際客船ターミナル
設計:foa 2002年



台中オペラハウス模型
設計:伊東豊雄 2005年

□arch-unit_2010 のコンセプト

この企画の3つの目標を挙げます。1つ目は、訪れる人々に「感興」していただけるような躍動的空間を提供します。2つ目は、材料を再利用可能なものを検討し、「環境」についても考えていただけるような場とします。最後に、3つ目として、この機会を講義で取得した設計・計画・意匠・環境・構造といった建築学の知識を生かす実践の場にしていきます。

□Kankyo 概要

今回は、非幾何学による新たな空間を創造し、エコロジーな材料による建築空間を追求した「躍動的空間」をテーマとします。建築の根本的要素である壁・柱・天井の概念を無くし、未体験な躍動的空間を模索することで、訪れた人々に違った印象を与えること、また、再利用できる資源を有効活用し、空間に応用することで、現代における環境問題の解決策の一端として提示するとともに、その建築空間における様々な可能性を見出していきます。以上の2つをこのテーマの目的とします。

○concept image



○site・plan・structure



敷地は角脇川周辺としました。

○design

構造は、初期段階では木造で全て組み立てる計画をたてました。この構造では柱が均等に割り当てており、二重構造の屋根や軒下を支えるつかえ棒等、全体的に重厚な印象を与えるものでした。そしてもっと自由な空間とその実現性を追求した結果、柱を乱立させること、天井を高くする事、組み立てが用意であること、比較的安価であるといった点から、アルミパイプを用いる事にしました。

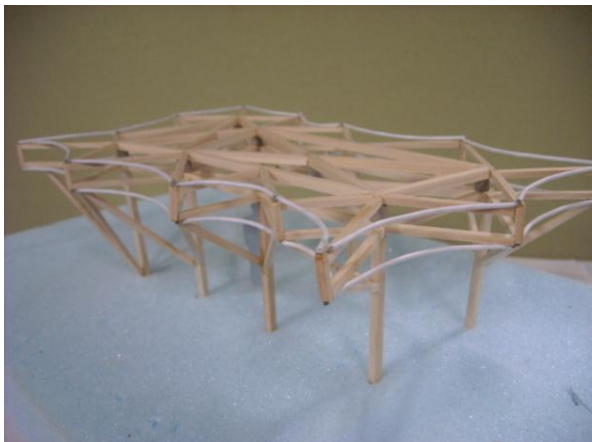


図1.初期段階の構造(木造)

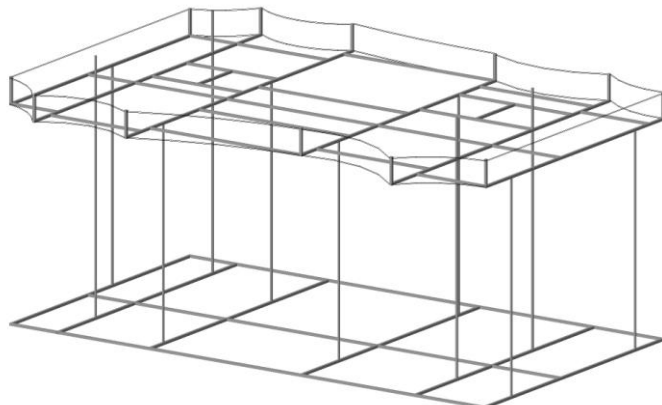


図2.実施した構造(アルミパイプ)

外観は、全てを白い布でゆとりを持たせながら覆うことで、風による外観のゆらめきが生じ、洞窟のようでありながらも抽象的な動的空間となるデザインとしました。外壁は用いず、不織布を用いて内部への透視性を曖昧にさせました。



図3.『Kankyo』の外観



図4.立面図

内部は柱が不規則に乱立する比較的自由的空間としました。その中にテーブル、いすを配置し、広島大学の中でも自然の中に身を置くという感覚、それが心地良い空間となるように考慮しました。



図5.『Kankyo』の内観

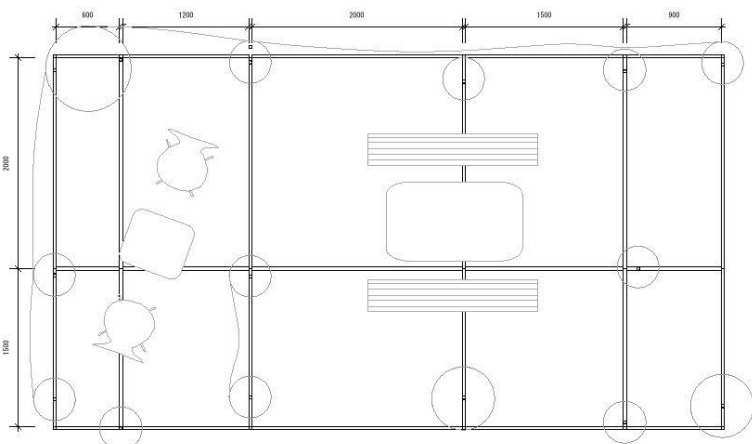


図6.平面図

■ project report

□ 作業風景

<2010/10/28~11/06>



□ 当日の写真

<2010/11/07~8>



■project report

□当日の展示

○展示

空間内部のテーブルと柱に過去の作品が写されたパネルを展示し、くつろぎながらも我々の活動について少しでも知っていただけるようにしました。また、来場者にゆっくりくつろいでいただくために、コーヒーや紅茶、ジュースとお菓子を無料で提供しました。



□宣伝

○立て看板、ポスター

模型写真をもとに加工して作りました。来場者が興味を示してもらえるように不思議なイメージで製作しました。



□アンケート

今年も例年に引き続きアンケートを行いました。

初日では約50名の一般の方々が参加してくださいましたが、2日目の早朝に雨が降って建物に損傷を与えたため、残念ながら中止するという判断をせざるを得ませんでした。



性別 男性 女性

年齢 9才以下 10代 20代 30代 40代 50代 60代以上

職業 ()

この企画をどこで見ましたか？

ポスター 大学祭パンフレット 知人・友人 インターネット その他 ()

この企画について

良かった点

悪かった点

今回の企画について感想をお願いします



ご協力ありがとうございました。



arch-unii 2010

■project report

□アンケート結果(アンケート回答例の抜粋)

○性別

男性 24 名 / 女性 20 名

○年齢

9 歳以下 8 名 / 10 代 4 名 / 20 代 21 名 / 30 代 4 名 / 40 代 4 名 / 50 代 2 名 / 60 代以上 1 名

○職業

小学生 8 名 / 高校生 4 名 / 大学生 21 名 / 公務員 1 名 / 主婦 4 名 / 研究員 1 名 / 教師 1 名 / 無職 1 名 / 無記入 3 名

○この企画をどこでしましたか？

ポスター 10 名 / 大学祭パンフレット 25 名 / 知人・友人 0 名 / インターネット 0 名 / その他 9 名+

この企画について

○良かった点

- ・ 日があたらなくて涼しいし、無料なので良かった。
- ・ 全部良かった。
- ・ 白がきれいに入ってしまいました。
- ・ ぼくは、白いホテルに来たみたいで、くつろぎました。
- ・ 空間が意外と気持ちよかった。
- ・ 接客態度◎
- ・ お菓子、コーヒーが良い。
- ・ 心地よい空間でした。
- ・ 落ち着く。何か自然。
- ・ 壁のようになっている布の透明感がきれいでした。
- ・ おいしいコーヒー。
- ・ 風が通りやすくした事。Very good.
- ・ 風が気持ちいい。
- ・ 外皮が風で迫ってくるのがスリリングで楽しい。
- ・ 白くふわふわした感じ。
- ・ 半透明の布の雰囲気良かった。
- ・ 風がとても心地よかった。
- ・ 建築的な、アートのようなもので、おもしろいです。
- ・ 見た目が良い点。遠くから見ている目に止まる。
- ・ 中に入ると壁や柱が風に揺れてふわふわするので、とても癒されます。
- ・ ビオトープの自然の中にくつろぎの空間アートはすばらしい。
- ・ 白い布で、きれいでした。
- ・ 自然の中でくつろげました。

etc

○悪かった点

- ・ 床も白いので、汚してしまうという罪悪感がありました。
- ・ 下からの上昇がない。
- ・ 下のパイプがちょっと痛いかも。
- ・ 規模？
- ・ 蚊が飛んでくる。
- ・ 近くに来ないと、中に入らないと、どんなものが何をするのかはわかりません。
- ・ 全体が白なので、汚してはいけないと思い、少し気をを使う点。

etc

■project report

□アンケート結果(アンケート回答例)

○感想

- ・ 休憩できる良い空間だったので、良かったです。
- ・ シンプルで良いと思います。
- ・ 安らぎました。心がくつろぎました。白は、心が洗われるようです。ありがとうございました。
- ・ 来年もしてもらいたい。
- ・ とても眠くなる空間ですね。ベッドを用意してあったら最高でした。
- ・ おいしかったです。楽しかったです。
- ・ ポスターがきれい。コーヒーがおいしい。
- ・ くつろげる空間でした。
- ・ 楽しかったです。
- ・ 歩いていて少し疲れたので、休憩できる良い空間だと思いました。
- ・ もっと宣伝したらどうでしょうか？感心する人はいると思います。
- ・ 大変のんびりとした時間を過ごせました。ありがとうございました。
- ・ コーヒーの接客ありがとうございました。
- ・ 心が落ち着きました。作る過程を見て、大変そうだなあと思いました。
- ・ 良い企画だと思います。

etc

■会計決算報告

日時	品物	店舗	金額
基本作成費			
20101014	雑費(模型スタディ用)	岩井	¥9,000
20101105	ベンチ	ナフコ	¥16,958
		計	¥25,958
実施作製費			
20101023	布	手芸マキ	¥44,550
20101029	パイプ	ナフコ	¥63,276
20101029	糸	ナフコ	¥1,470
20101101	布	手芸マキ	¥18,150
20101101	パイプ追加	ナフコ	¥3,563
20101104	パイプ追加	ナフコ	¥6,780
20101105	パイプ追加	ナフコ	¥1,750
20101105	ぷちぷち	ナフコ	¥675
		計	¥140,214
広告費・雑費			
20101014	雑費(紙コップ等)	ゆめタウン	¥3,000
20101101	ガソリン(運搬代)		¥3,000
20101101	もてなし(コーヒー代)	ゆめタウン	¥796
20101101	用紙,インク	DEODEO	¥13,980
20101105	ガソリン(運搬代)		¥3,000
20101105	スチレンボード(展示用)	多山文具	¥2,408
20101105	もてなし(コーヒー代)	ゆめタウン	¥2,651
20101106	もてなし(お菓子代)	岩井	¥1,518
20101106	もてなし(お菓子代)	ゆめタウン	¥1,101
20101106	もてなし(お茶代)	セブン	¥1,282
20101106	ガソリン(運搬代)		¥2,073
		計	¥34,809
合計			¥200,981

助成金 ¥200,000

学生負担金 ¥981

■総括

この機会を講義で習得した設計・意匠・環境・構造の総合の場と捉え、『Kankyo』と題して、私たち arch-unit は、現代建築の様相からコンセプトを得て設計を行い、実際に形にするというインスタレーションを行い、訪れる人々に提案した作品を体験し、評価して頂きました。

ここでは、私たちが普段扱うミニチュアサイズの模型におけるスケールではなく、実物大のスケールで実験を行うことで、本企画の趣旨である「動的空間」をよりの確に、また「効果的に表現することができました。しかし、この企画のコンセプトや作品の趣旨等をあまりにも抽象的に表現したポスターでは、一般客にとって何もわからないまま来ていただいていたのが現状でした。この企画の建物を間近に見て初めて理解して下さった方々が多数であり、もっとわかりやすいポスターを制作して宣伝すべきであったことが反省点です。私たちが提供する企画の趣旨をいかに表現して一般客に伝えるかが今後の課題であると考えます。

また、企画の準備段階において、私たちを含む建築学を専攻する学生達が制作に携わることで、本企画が、このコンセプトでもある現代建築の様相について再考する機会となっただけではなく、実物大のものを手作業で制作するという大学の講義では得られない貴重な体験の場となりました。

奇しくも2日目の早朝に雨が降り、建物の維持や活動するにあたり危険であると判断したため、残念ながら2日間連続で開く事はできませんでしたが、初日で約50名の方に来場していただき、アンケートでは多数のご意見・ご感想を頂きました。その中では、一般の方からも「中に入ると壁や柱が風に揺れてふわふわするので、とても癒されます。」「安らぎました。心がくつろぎました。白は、心が洗われるようです。ありがとうございました。」などのご好評を頂くことができ、建築に対する魅力や、私たちに影響を与える空間の可能性というものが少しでもお伝えする事ができたのではないかと思います。

最後になりましたが、本企画を成功させるにあたり、多額の助成をしていただきました広島大学工学研究科長の吉田総仁様をはじめ、工学研究科学生生活委員会の皆様、様々なアドバイスをしてくださった水田丞助教授、様々な作業をする上でサポートしてくださった研究室の先輩、最後まで一緒に取り組んだ建築史・意匠学研究室一同、そして本企画を楽しんでくださった来場者の皆様に心から感謝します。本当にありがとうございました。

代表 市川研二